

平成 28 年度 岡山大学大学院法務研究科  
法学既修者入試 B 日程 試験問題

## 刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

### 解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、【問題 1】と【問題 2】がある。配点は、【問題 1】が 60 点、【問題 2】が 40 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、【問題 1】用と【問題 2】用の 2 枚が配布されている。問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】（解答は，【問題 2】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き，冒頭に【問題 1】と記入すること。）

次の【事例】を読み，後記〔設問〕に答えなさい。

【事 例】

医師 X は，かねてから恨みを抱いていた患者 A を治療薬の投与を装って殺害しようとして計画し，事情を知らない看護師 Y に致死性の毒物の入った薬を手渡し，A に点滴するよう命じた。

Y は，X から与えられた薬を，A に対するものではなく，A と同姓同名の別の患者 B に対するものであると勘違いし，B に点滴を行い，その結果，B が死亡した。

〔設 問〕

Y に業務上過失致死罪が成立するとして，X の罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

《問題 1 以上》

《次頁に続く》

【問題 2】（解答は，【問題 1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き，冒頭に【問題 2】と記入すること。）

次の【事例】を読み，後記〔設問〕に答えなさい。

【事 例】

警察官 P らは，被害者 V が繁華街で「金を出せ」と刃物で脅され財布を奪われた強盗事件につき，裁判官から逮捕状の発付を受け，ある日の午後 4 時頃被疑者 X を逮捕するため X 宅へ向かった。

X 宅に向かう途中，P らは，商店街裏手の車両が頻繁に行き交い，人通りも多い狭い路地を X が歩いているのを発見し，P らに気づいた X が逃走の気配を示したため，その場で X を通常逮捕した。

P らは，逮捕後，直ちに X を警察車両に乗車させ，逮捕現場から約 1 キロメートル離れた最寄りの警察署に連行し，逮捕から約 10 分後に同警察署内において，X の身体及びその携帯していた鞆を捜索したところ，鞆内に本件強盗の被害品の一部と思料される V 名義のクレジットカード 1 枚があるのを発見したため，これを差し押さえた。

〔設 問〕

警察官 P らが行った捜索・差押えの適法性について論じなさい。

《問題 2 以上》  
《刑事法系問題 以上》

**【出題意図】**

**問題 1**

間接正犯の成否，被利用者の錯誤といった法学部の刑法において学修する基本的な事項を問うことにより、刑法理論に関する正確な理解をみるとともに、事例処理能力を試すものである。

**問題 2**

本問は、刑訴法第 220 条に基づく無令状搜索差押えの「逮捕の現場」の意義について問うものである。